おやつのじかん３　ーちょっとひとやすみー

ー少しの勇気ー　　NO．23

子ども達の春休み、じつに長いですよね。夏休みやお正月と違って、大人の世界は通常どおり。イベントもなく、行き先をなくした子ども達がパワーを余らせています。そして、ふたを開ければ、人が替わってクラスが替わって。子どもによっては行く先も替わって。この有り余ったパワーを、思い切りは出しにくい環境かもしれません。大人も同じです。この時期は、別れがあって出会いがあって、ちょっとした変化に小さなストレスがいくつも。まあ、落ち着きません。でも、季節が過ぎると、必ずペースは戻ります。そして、戻った時には知らぬ間に、一段アップしています。４月を気持ちよく振り替えられる６月あたりを、まずは目標にしてもいいかもしれません。

さて、子ども達の、どうにも収まりの悪い日々。今までできていたことが足踏みをしてしまったり、楽しめていたはずの枠の中に入れなくなってしまったり。少し窮屈な日々になっている子も少なくないと思います。そばにいる大人は、「できるはず」「わかっているはず」と、子どもの背中を押したくなるし、「しっかり！」「ちゃんと！」と語気を強めたくもなります。できていたことが、できなくなる怖さもありますし、その姿に落胆してしまう場面もあるのではないでしょうか。

結論を先に言ってしまいますが…、大丈夫です！安心してください。次のステップに必要な時間です。目の前に、ちょっと見にくい穴が開いているみたい。それを飛び越えるためには、少し勢いをつけなきゃ飛び越せない。そのためには、後ろに下がらなきゃですよね。走り出して飛ぶタイミングは子どもそれぞれ違いますが、まわりを見ながらチャンスを待っていると思います。待っている間、なんだか落ち着かずにグズグズしてしまって、そこにはいるけど中途半端になっていたり。周囲の小さな変化に、目も心もキョロキョロしてしまい、手元がおろそかになっていたり。さて、そんな時、何を大事にしていけばよいでしょうか。

大きく２つの考え方、関わり方があると思います。ひとつめは、とにかくその場にいて、新しい環境で“見慣れ”“聞き慣れ”“過ごし慣れ”ていく定番の対応です。ここでのポイントは、無理に背中を押さないことです。子どもは、見ていないようで目に入れています。聞いていないようで耳にしています。気配をしっかり感じていますから。待ちましょ。それがその子の近道です。

もうひとつ。新しい環境に不安定感が膨らむのなら、まずは、その子のペースで過ごせる時間と場所を作ります。本来いてほしい場所や場面はありますが、まずはプライベートスペースで、コンディション作りです。そこからみんなの過ごす様子が見えたり聞こえたりするとベストです。安心安定してくると、目線は上がります。少しずつ余裕を持って眺められるようになれば、誘いにも応じやすくなります。ここでのポイント。「誘うなら今だ！」と思ったら、次の次のタイミングくらいまで待ちましょう。成功体験で終わるように、エネルギーを十分に充填してほしいからです。

中途半端な１時間より、その気になって過ごせる５分のほうが、“満足”“期待”を生み出します。それを６分７分に。不本意な１０回よりも、取り組む気持ちになった１回。それを２回３回に。

そうは言っても、そこまで待つには、誘う大人にも、少しの勇気が必要です。
一人じゃ湧いてこない勇気も、誰かと一緒ならリンリンですね。お供します！（Ｈ３０．４）Ｋ